

## 臨床倫理学入門コース実施報告（佐藤恵子）

京都大学大学院文学研究科応用哲学・倫理学教育研究センター（CAPE）及び京大オリジナル（株）主催による、臨床倫理学に関する教育プログラム（臨床倫理学入門コース）を2021年8月28日、9月4日にオンラインにて開催しました。参加者は、全国から44名、ファシリテーターと講師12名、京大オリジナルから2名の総勢58名で実施しました。

今年で6回目となる本コースの目的は、臨床上での難しい問題に遭遇した際に、「患者の利益を最大にするのに適切な方策を考え、それを実践する戦術・技術も立てて行動する」ために必要な知識やスキルを身につけることです。一昨年までは京大に集まっていたいて実施していたのですが、疫病の流行もあり昨年は実施を見送りました。しかし、新型コロナウイルスなんぞに遠慮ばかりしているのもシャクだよね…ということで、オンデマンドによる動画視聴とライブ授業を組合わせてオンラインで実施することにしました。具体的には2つの事例（うら若き進行期のがん患者に、家族がエビデンスなき治療を求める事例と、回復不能な状態の患者の生命維持治療を事前指示書に従って中止するかどうかという事例）を取り上げて、相談を受けた臨床倫理コンサルテーションチームとして、相談者にどのような助言を返すかを検討していただきました。ペーパーケースとはいえ、患者や家族、医療者の間で繰り広げられるややこしい問題について率直な意見を述べたり対応策を立てたりする必要があるため、息づかいがわかる距離でなまの言葉を交わす場でないと難しいのではないかと思います。議論も想像以上に円滑に進んだようで、ほっと胸をなでおろしております。

臨床上の倫理的な問題は、倫理原則などに基づいて方策を立てることは必要ですが、それだけでは解決せず、患者の空間に身を置いてすべてのステークホルダーの考え、その源泉となっている欲や感情、それぞれが受ける利益・不利益を把握して、方策を実践する際の障壁も予測した上で戦術や技術も考えることが求められます。これまでの入門コースではなかなかそこまで到達してもらえなかったのですが、今回はほぼすべての班が戦術や技術もあれこれ提案しており、目標は概ね達成できたかなという感触を持ちました。

その要因として、企画側としては、これまでの本コースでの経験を踏まえ、四分割表や生命倫理の4原則、マンダラチャートなどのツールの使い方を具体的に示して順序立てて考えてもらったこと、グループで議論する際の検討ポイントも提示し考える道筋を示したこと、グループでの議論をまとめたり内容を報告したりする際に、Google docsなる文明の利器を活用したことなどが考えられます。お膳立てをし過ぎてしまうと、その中でしか考えられないという弊害もあるのですが、まずは「患者の空間を俯瞰して問題とその要因を把握し、患者の人生全体を見て、利益に資する方策と戦術・技術をたてて実行に移す」という作法を身につけるという意味では役に立つ

のではと思います。後は「守・破・離」の教え通り、日々の実践の中で技能を磨いていただければと思います。

また、参加者側の要因としては、1日目と2日目のライブ授業の間の1週間に、生命倫理や法学の基礎、インフォームドコンセントや臨床倫理コンサルテーションなどにかかわる講義の動画を視聴してもらいましたが、各自のペースで視聴することで基本的な知識を咀嚼する余裕があったのもよかったと思われます。しかし、全部で6時間半という苦行のようなオンデマンド授業になってしまいましたので、1本の動画を10～15分くらいにして、気軽に見てもらえるような工夫が必要と考えます。いずれにしても、目標を概ね達成できたという実感が持てたのは、参加者の皆さんが熱心に取り組んでくださったことが一番の要因だと思います。

そして、2日目のライブ授業終了後は、Wonder というこれまた新たな文明の利器を使って、意見交換の場を持ちました。立食パーティーのような雰囲気、話をしたい人がそこここに集まってしゃべるといふもので、技術の進歩に目を見張るばかりでした。オンラインでの実施は、制限もありますが、さまざまな技を駆使することでその良さも経験することができ、私自身も少し成長した感じがします。課題はありますが、ちょっといい気になった勢いで、アドバンスト・コースも開催しようかと考えています。

参加してくださったみなさま、ファシリテーターと講師のみなさま、そして、準備から運営まで細やかな気遣いをしてくださった京大オリジナルのみなさまに深く感謝します。オンラインでの実施には利点もありますが、やはりいのちにまつわる問題は、なまで（私はビール片手に）、熱く語りたいです。そんな日が来ることを願いながら、知恵と工夫で張り切ってまいりましょう。

2021年9月12日

佐藤 恵子